

小さな学校キャラバン

小さな学校キャラバン 2014

トラックさえ入ればどこにでも行って展示等ができるゆめはくの一つの大きな使命は、来館が困難な場所に出かけることです。そこで新たに「小さな学校キャラバン」を2014年度から開始しました。

実施要領

兵庫県へき地教育研究連盟に加盟する小中学校を対象に2014年6月に公募し、応募のあった7校を対象に2014年10月から11月に無料で実施しました。北は余部小学校、南は家島小学校まで出動することができました。

応募動機

応募動機では、来館が困難である事情や「廃校になる前に来てほしい」という声、「地域の自然を感じさせてほしい」「本物の魅力を」といった普段はできない体験や、総合学習や授業内容の補完を望む声が挙げられていました。

実施内容

展示やプログラムについては、担当の先生との打ち合わせを原則、ひとはくと現地で行い内容をつめています。いずれも、ゆめはく内の展示に留まらず校内にも展示し、レクチャー

や各種プログラムもセットで実施しています。

具体的な展示内容として、昆虫標本を希望する学校が多く、子どもたちが熱心に観察する様子が印象的でした。また、各校で周辺地域の自然を取り上げています。家島小学校では、現地調達したカマキリの観察・体験、道谷小学校では「道谷の植物」を取り上げ、神楽小学校では学校ビオトープを活用したり、佐治川で採集した微化石の観察を行ったりしています。余部小学校では、但馬地域で活躍するアーティストから近くの海岸で拾った石に「ストーンペインティング」体験の指導を受けています。

今後の課題

2014年度の実施時期は、6月に公募をかけ、10月から11月の実施でした。学校側から行事等の計画は年度当初には決まっているので応募は困難であるという声が聞かれたため、2016年度から、2016年の2月から4月にかけて公募をかける予定にしています。また、これまで兵庫県へき地教育研究連盟に加盟する小中学校を対象としていましたが、加盟の条件にあわない学校でも、来館が困難な学校はあるため、2016年度から対象を拡大して公募します。



昆虫標本を観察する子どもたち（家島小学校）



ストーンペインティングの作品（余部小学校）



学校の位置とビジター数（2014年度）



小さな学校キャラバン

代表者：藤本 真里

分担者：上田 萌子、鈴木 武、高橋 晃、塚本 健司、中前 純一、橋尾 和紀、半田 久美子、古谷 裕、八尾 滋樹、八木 剛